



～ ニューヨーク補習授業校だより ～

JWSNYの爽風

令和3年(2021)
6月5日発行

Breeze
第4号



校長 川崎淳一郎

補習授業校W校の紹介! ～卒業生の体験談 特集No. 1～

【6月、六月 (水無月)】

・6月になりました!!水無月 (みなづき) と言い、日本では、田んぼに水を引く月であったため、水の月と言われるようになったと考えられています。アメリカでは、4月から6月にかけて雨の多い傾向がありますが、日本ではこの6月は「梅雨 (つゆ)」に入り雨続きになります。傘 (かさ) が手放せない季節になります。雨の日は好きですか?それとも、嫌いですか? いろいろな考え方がありますが、雨が降ると草木や花々は喜び、蛙 (カエル) も生き生きしますね! その季節で良い出会いがあります。



◇紫陽花 (あじさい) ◇雨と「てるてる坊主」
◇夏至6月20日ごろ<一番昼が長い日です。>

【ウエストチェスター校 = W校】

住所: 113 ボウマン アベニュー ポートチェスター



● W校 (ポートチェスターミドルスクール)

W校の借用校はマンハッタン以北東、ポートチェスターにあり、マンハッタンから電車・車で約40分の所に位置しています。Tel (914) 939-7445 (授業日のみ)



<6月5日現在>

幼児部 3クラス
初等部 15クラス
中等部 5クラス
高等部 3クラス



餅つき大会



運動会



百人一首大会



授業



のみの市

【W校卒業生の体験談 ①】

私が生まれ育ったウエストチェスターは、私のような日系アメリカ人にとって、とても恵まれている環境だと思います。日本人の人口も多いことで、アメリカにしながら日本の文化や世界観に十分に触れることができるのです。そして、この日本の世界を実現させてくれたのが補習校です。平日は現地の学校に通い、土曜日は補習校に通うという、一見苦痛に聞こえるスケジュールですが、アメリカと日本の二つの異なる世界を体験できて私はすごく貴重な機会を頂いたと思っています。日本から引っ越してきてあまり英語がわからない生徒、ずっとアメリカ育ちで日本語があまりわからない生徒、もしくはその間の生徒が一つのクラスに混ざっていることで、小学生でありながら「文化の違い」というものを学べて視野が広がりました。

私は中高等部にあがってから、補習校に行くのが苦痛じゃなくなりました。中高等部に入ってからもっと自由が増え、先生方とも仲良くなり、同学年の生徒ともこれまでにない程距離が近くなりました。何より、生徒会活動やクラスの役員活動などが大きいです。生徒会活動を通して違う学年の生徒と交流が増えたり、自分たちで行事を計画する、という貴重な体験ができるようになるのです。中高等部で出会った友達とは、日本へ引っ越しても、違う大学へ進んでも、卒業した今でも連絡を取り合っているかけがえのない仲間です。周りに中高等部に通うか悩んでいる方がいたら、私は通うことを絶対に勧めます。

今、日本で暮らしている親戚と満足にコミュニケーションが取れることも、自分がバイリンガルと言い切れることも、些細なことですが百人一首が特技になったことも、全て長年補習校に通っていたおかげです。現にこうして読者に私の言葉で何かを伝えられているのも、補習校のおかげだと信じています。12年間補習校に通い続けて本当に良かったです。

(2020年度卒業、ノースイースタン大学で機械工学部とデザインを専攻)

『授業で学んだ内容よりも、運動会や球技大会、新年の書初め、日本の風習と触れ合う機会が一番思い出に残ります。運動会で選手代表の宣誓をしたことや、小学校の卒業生代表で答辞を読んだ時の緊張感をよく思い出します。中高では、友達と交換日記をまわしたり、漫画や日本のCDの交換もしました。日本の情報が入る補習校は最高でした。そして友達や先生と一緒に食べるお昼ご飯の時間が楽しかったです。平日のお昼ご飯はサンドイッチでしたが、土曜日はお母さんの作ったお弁当が食べられて嬉しかったことをよく覚えています。』

(2004年度卒業、スワスモア大学、キャンザス大学院を経て、バイオリニスト)

補習校で得たものは大きく分けて二つあると思います。一つ目は米国にしながら、日本的な学校生活を経験できたことです。たった週一度でありながら、日本人として先生方、クラスメイトたちと触れ合い、本来、日本でしか味わうことのできない経験をアメリカの地でも満喫できました。二つ目は掛け替えの無い友人や先生方との出会いです。たとえ卒業後、会う機会が減ってしまったり、別々の国に住むことになってしまっても、共に過ごした時間と思い出は一生の宝物であり、振り返ると自分にとって青春だったと感じています。卒業してすでに早四年ですが、当時の経験は今でも自分の中で生き続けています。補習校に通ったおかげで日本の文化や歴史を忘れずに今後も日本人として世界の舞台に立っていきたいと思います。

(2016年度卒業、イエール大学で経済学を専攻)

中学2年の4月から引っ越し、英語も分からず、現地の友達もほとんどいなかった私にとって補習校は、日本語で話す友達ができ、日本語で学べる環境が整っている特別な場所となりました。球技大会や蚤の市といった日本の学校ならではの行事も楽しめただけではなく、塾と違って受験を目標としていないので他の生徒と自分を比較することなく、クラスメイトと仲良くのびのびと過ごすことができました。卒業後も連絡を取り合える仲間と出合って、楽しい思い出をたくさん作れて補習校に通ってよかったなと心から思っています。

(2020年度卒業、現在は一橋大学で社会学部を専攻)

私にとって補習校とは日本の文化を学んだ場所、そして、かけがえのない親友達と出会った場所です。初等部の頃は土曜日に授業を受けるのがめんどうだ、宿題をやりたくないだと文句を言ってばかりでした。ですがクラスメイトとの距離が縮まり、素晴らしい先生たちと出会うにつれてだんだん土曜日が待ち遠しくなっていました。もちろんのみの市などのイベントは楽しかったですが、授業中のふとした面白いハプニング、休み時間でのじゃれあい、と、そんな日頃の他愛のない会話が私の中での補習校の一番の財産です。私は補習校に通わせてくれた両親に本当に感謝しています。おかげで大好きな先生たち、そして大好きな友人たちとたくさん思い出を作れました。残念ながら私達のクラスは華やかな卒業式を送れませんでした。それでも彼らと過ごした12年間は何ものにも変え難い経験です。ぜひ皆さんも補習校で素敵な思い出を作ってみてください。

(2020年度卒業、現在はビンガムトン大学で生物学部を専攻)



七夕祭り



絵画展



入学式



節分



卒業生を送る会



外遊び



放課後クラブ



生け花



中高等部球技大会



書き初め